

行事報告書(研修)

報告者：華崎 律子，関根 千鶴

行事名	自然観察会
実施日時	2018年9月6日(木) 10時～15時 天候: 晴
場所	阪急仁川駅→地すべり資料館周辺→五ヶ山古墳群→旧阪急仁川植物園跡→大阪層群の露頭→広河原→甲山自然の家→神呪寺→花崗岩の露頭→阪急甲陽園駅
テーマ	甲山周辺の地形・地層と岩石
講師	武川雄二さん(シニア 16 期・自然と文化科)
参加者数	29 名
内容(概要)	<p>前々日の台風 21 号の被害を受けた会員もおられ、予定より少ない 29 名が阪急仁川駅前に集合した。当日の早朝に北海道で震度 7 の地震があったことを受けて、講師の武川さんが早速、「北海道は一つの島ではなく、プレートの動きによっていくつかの島が集まってできたもので、日高山脈などはぶつかった大地の境目が隆起したもの」と説明してくださった。</p> <p>〈阪急仁川駅→地すべり資料館周辺〉 仁川沿いを上流に向かって出発した。歩きはじめてすぐに、河原で花崗岩、安山岩、花崗岩が風化してできた真砂土を観察した。花崗岩はマグマが地下の深いところでゆっくり冷え、カリ長石、斜長石、石英、黒雲母などの鉱物の結晶が大きく成長してできたもので、安山岩は地表に出たマグマが急速に固まってできたものという。</p> <p>仁川の河岸段丘を確認して、兵庫県南部地震による地滑りで大きな被害のあった場所に着く。土砂が家屋を押しつぶし多くの犠牲者が出た話を聞いて、改めて土砂災害の恐ろしさを感じた。</p> <p>〈五ヶ山古墳群→旧阪急仁川植物園跡→大阪層群の露頭〉 五ヶ山古墳群を過ぎて、旧仁川植物園跡に到着した。ここからは有馬・高槻構造線が見渡せた。また足下は大阪層群でチャートが数多く観察できた。さらに大阪層群の露頭を訪れた。大阪層群は 300 万年前～数 10 万年前の地層で、このとき寒冷な時期と温暖な時期が何回も繰り返されて海面が上がったり下がったりしたという。海面が高いときは粘土、低いときは砂・礫が堆積した。また断層活動によって六甲山地は高くなり、現在の大阪湾のあたりは沈んだので、六甲山地と大阪湾で同じ地層が見られる。チャートは放散虫の殻が集まってできたもので、非常に硬く、火打ち石にも使われたという。含まれている鉱物のちがいで赤・白・緑・茶とさまざまな色があり、魅力的な石だ。</p> <p>仁川広河原のあずまやで昼食。</p> <p>〈甲山自然の家〉 展示されている捕獲岩について説明を受けた。甲山を形づくるのは、もともとあった六甲山の花崗岩をマグマが貫いてできた安山岩だという。このときマグマが取り込んだ岩石が捕獲岩だ。花崗岩と安山岩が接しているのがわかる。甲山安山岩は輝石という鉱物が多く、黒っぽいのが特徴。</p> <p>〈神呪寺→花崗岩の露頭〉 神呪寺の山門から甲山八十八ヶ所 62 番近くの花崗岩の露頭に向かう。大きな花崗岩がたくさんある。矢穴が残っているものもある。ここでは、ラインが入った花崗岩を観察することができた。このラインは、マグマが冷えかかっているときに、残った液体の部分が割れ目に入り込んで比較的急に冷えてできたもので、粒が細かい。半花崗岩、あるいはアプライトと呼ばれている。甲陽園駅までの道でも鍋島藩の刻印や矢穴の跡のある花崗岩を見ることができた。</p> <p>阪急甲陽園駅近くの公園で解散後、希望者は、さらに兵庫県指定天然記念物である植物遺体の包含層(ラリックス層)を見学した。</p> <p>武川さんには詳しい資料を用意していただき、観察のときにたいへん参考になった。私たちの自然観察フィールドである甲山の地形・地層・岩石が興味深いものであることが実感できた研修会だった。</p>



武川講師の仁川駅でのレクチャー



実はこれも花崗岩



仁川の石や砂は花崗岩が崩れたもの



仁川河岸段丘



仁川 甲陽断層



地滑り跡地



歳は2億歳、様々な色のチャート



大阪層群の露頭



安山岩

捕獲岩

花崗岩



大阪層群と花崗岩の不整合

大阪層群の礫層
約300万年前

花崗岩
約8000万年前



甲山62番 花崗岩の露頭



甲山、神呪寺を望む



鍋島藩の刻印がはっきり見える



緑色片岩 民家の塀